

夏季に着用する快適ジャケット（婦人用）Ⅱ —作りやすく、そして盛夏を乗り切るために—

加藤 祥子* 藪 聖美**

*家政教育講座

**大学院学生

Comfortable Jacket Worn in Summer (for Women) II —Easy Make and Get Across Midsummer—

Shoko KATO* and Kiyomi YABU**

*Department of Home Economics Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

**Graduate Student, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

1. はじめに

本学では暑い季節に教育実習が行われ、体調を崩す者も少なからずいる。また、将来小中学校教諭になる者も多く、季節に関わらずフォーマルな装いは欠かせない。しかし、市販されているジャケットはデザイン性が評価され、板書する際に腕が上げにくかったり、低学年の児童の目線に合わせてかんだ際に中着が見えてしまったりと、教諭特有の活動においては不都合な点が多くある。

夏季に着用するジャケットを動きやすく、涼しく、着心地の良いものにするため、またフォーマルな場面でも十分活用できるようにジャケットの設定、製作、着用実験を行った。動きやすさとシルエットの関係は相反するが、シルエットを崩すことなく着心地の良さを確保したいと考えた。前報¹⁾では身幅と袖幅を広くしながら、ゆとりと涼しさを確保し、袖の裁断を正バイアスで行うことによって、身幅をそれほど広げなくても、腕の動作適合性は損なわれないことが分かった。身幅を原型より脇で1.5cm広げ、袖ぐりの深さを1.5cm下げて、バイアス裁ちの袖を付けることによって、さらに身幅を広げ、袖ぐりを下げた縦裁ちの袖の場合と着心地には差がないことも分かった。この結果を踏まえ、着用する季節を盛夏に限定して、涼しく、動作適合性に富み、シルエットの美しいジャケットの製作を目指す。

2. 改良型ジャケット1の設定

前報で最終的に提案されたジャケットに改良を加え、改良型として設定する。原型は文化式婦人用原型²⁾

を使用した。

2-1 型紙

型紙の改良はまず前身頃のパーツを2パーツから1パーツへ、パーツの減少を試みた。

前報では前身頃を図1のように2パーツで構成していたが、図2のように一部を切り離さず連続した1パーツで構成する。構成パーツを減らすことで時間短縮を図る。

2-2 Hemの処理

Hemの処理をパイピングからオーバーロックに変更する。短時間で簡単に製作することを目指す。

2-3 首周りのデザイン

首周りを図3の左に示すラウンドネックから、右に示すVネックに変更し、フォーマルに見えるようにした。

改良型ジャケット1の素材には表1に示す3種類を用意した。

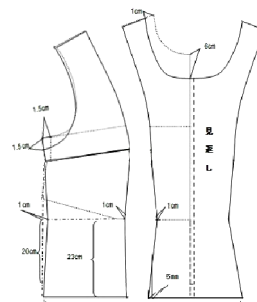


図1 ジャケット3の前身頃の型紙

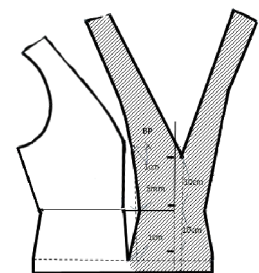


図2 改良型ジャケット1の前身頃の型紙



図3 左：ジャケット1 右：改良型ジャケット1

出来具合いと、ルレット跡の付きやすさを検討して、実験用素材は綿100%厚手のオックスに決定した。

3. 着用実験とアンケート

本学家庭選修・専攻2年生34名が改良型ジャケット1を製作した。袖のバイアス裁ちの効果を確かめるために、12名は袖を正バイアスで裁った。(図4)

着用後、「出来栄への満足度」や「着心地」、「製作のしやすさ」等についてアンケートに答えた。アンケートは以下に示す12項目について行い、5段階で評価した。(⑦のみ2段階) 全項目に記述欄を設けた。

- ①ジャケットを作ってみて、どう感じましたか。
非常に易しい 5 4 3 2 1 非常に難しい
- ②ジャケットの出来具合はどうですか。
非常に満足 5 4 3 2 1 非常に不満足
- ③型紙を引く作業について、どう感じましたか。
非常に易しい 5 4 3 2 1 非常に難しい
- ④体にフィットしていますか。
非常に満足 5 4 3 2 1 非常に不満足
- ⑤着用時のシルエットはどうですか。
非常に満足 5 4 3 2 1 非常に不満足
- ⑥着丈について、どう感じましたか。
非常に満足 5 4 3 2 1 非常に不満足
- ⑦動作したときに中着が見えますか。YES・NO
- ⑧袖丈について、どう感じましたか。
非常に満足 5 4 3 2 1 非常に不満足
- ⑨上挙時の着心地について、どう感じましたか。
非常に満足 5 4 3 2 1 非常に不満足
- ⑩接着芯貼付の難易度について、どう感じましたか。
非常に難しい 5 4 3 2 1 非常に易しい

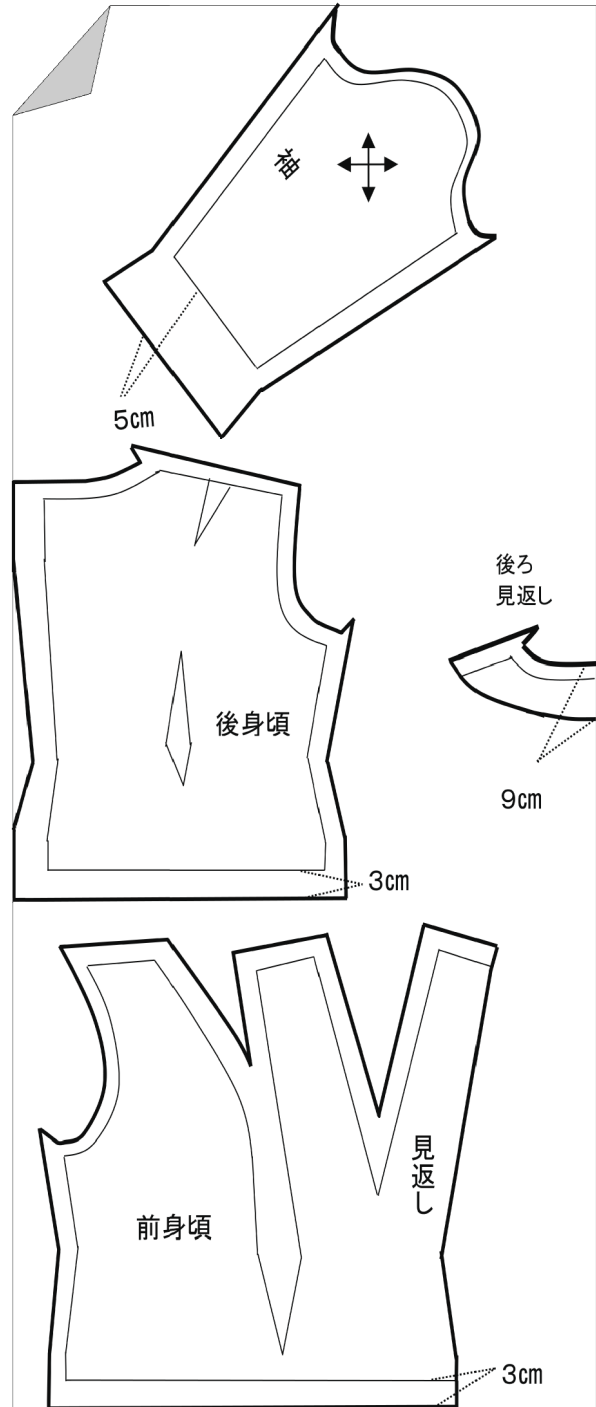


図4 改良型ジャケット1の裁断 (正バイアス)

表1 改良型ジャケット1素材の諸元

名称	項目	繊維	組織	厚さ (mm)	重量 (g/cm ²)	糸密度 (本/cm)		防しわ率 (%)			曲げ剛さ (g・cm)		
						経	緯	縦	横	バイヤス	縦	横	バイヤス
オックス		綿100%	平織	0.34	0.02	28.00	18.00	42.30	50.80	58.30	0.74	0.17	0.35
ウェザークロス		ポリエステル65% 綿35%	平織	0.31	0.02	26.00	26.00	66.10	65.90	62.60	0.45	0.28	0.23
ラミーキャンバス		麻100%	平織	0.54	0.02	33.00	23.00	43.00	34.00	46.80	0.58	0.47	0.54

⑪袖裁断の向きについてどう感じましたか。

(バイアス裁ちのみ)

非常に難しい 5 4 3 2 1 非常に易しい

⑫フォーマルな形だと思いますか。

非常に思う 5 4 3 2 1 非常に思わない

4. 結果と考察

前報のジャケット1とアンケート結果を比較すると、②出来具合、⑥着丈、⑫フォーマルかどうか、の3項目において大いに改善がみられた。

図5に示す「出来具合」に関しては、前身頃のパーツが減ったことにより、最終工程である縫製や仕上げに時間をかけることができ、満足度の上昇に繋がったことが考えられる。

図6は「着丈」の結果であるが、ジャケット1ではウエストより15cmだったのに対し、25cmと10cm長くしたことで、不満を感じる者が大幅に減少した。

図7は「フォーマルかどうか」の結果である。改良型ジャケット1は深いVネックにしたことで、テーラードカラーの形状に近づいた。また、ジャケット1では入っていなかった肩パッドを入れたこと、色を黒にしたことで、フォーマルに見えると感じたようである。

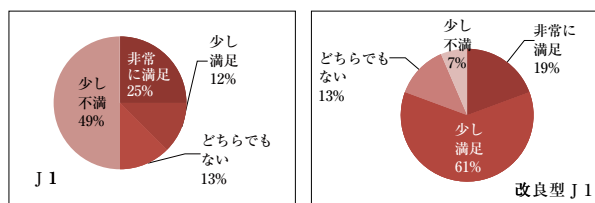


図5 出来具合

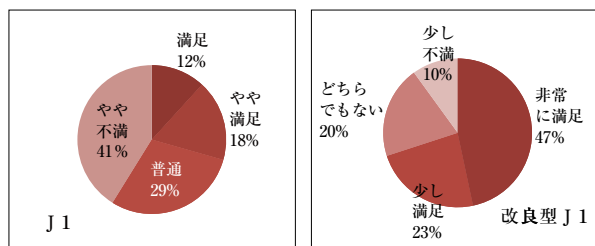


図6 着丈

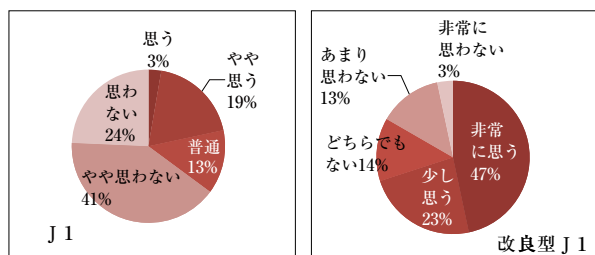


図7 フォーマルかどうか

5. 新しいジャケット(改良型ジャケット2)の設定

改良型ジャケット1は、前身頃と見返しの上部が細くなり、接着芯が貼りにくく、生地が伸びて縫い合わせがずれるという難点があった。そこで、図8に示す改良型ジャケット2は前身頃を浅めのVネックにし、ダーツを首周りに移動することによって細い部分を無くした。これにより、布の伸長を抑え、接着芯を貼りやすくする。

図9のように後身頃の型紙も肩ダーツを首周りに移し、前後から肩に集中していた縫い代を分散させることで、縫い代の集中による縫いづらさを解消する。

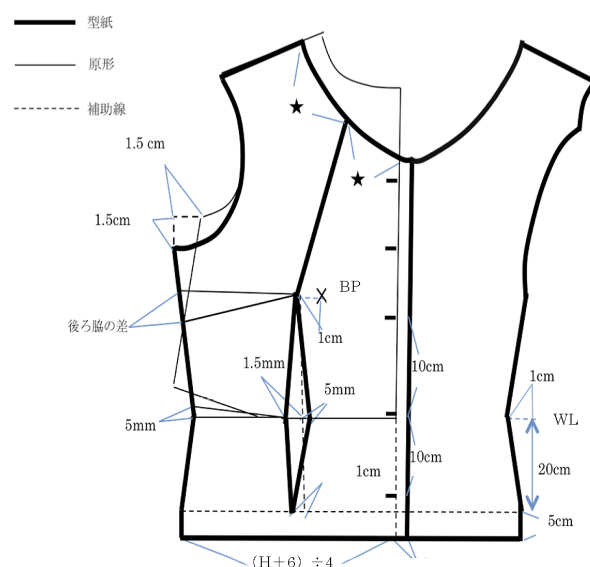


図8 改良型ジャケット2の前身頃の型紙

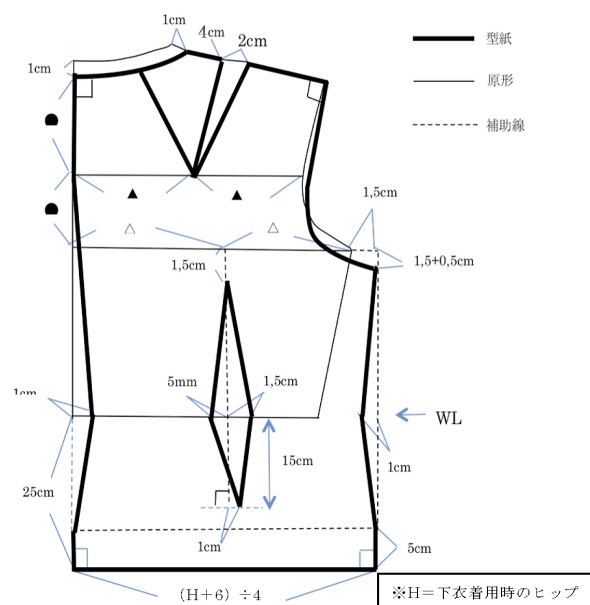


図9 改良型ジャケット2の後身頃の型紙

表2 改良型ジャケット2の素材の諸元

名称	項目	繊維	組織	厚さ (mm)	重量 (g/cm ²)	糸密度 (本/cm)		防しわ率 (%)			曲げ剛さ (g・cm)		
						経	緯	縦	横	バイヤス	縦	横	バイヤス
コードレーン		綿100%	平織	0.41	0.02	48.00	32.00	43.00	42.00	50.50	0.60	0.13	0.21
綿レース		綿100%		0.70	0.70			64.40	50.20	61.60	0.78	0.36	0.55
ラミーキャンバス		麻100%	平織	0.54	0.02	33.00	23.00	43.00	34.00	46.80	0.58	0.47	0.54

表3 素材の写真




素材名		写真
A	コードレーン	
B	綿レース	
C	麻	

表4 実験服のサイズ分類 (cm)

サイズ	胸囲	身長
S	75以下	155以下
M	80前後	160前後
L	85以上	165以上

6. 実験方法

本学家庭選修・専攻の学生38名を対象に改良型ジャケット2の着用実験を行った。

実験服は3種類の素材とS・M・Lの3サイズで9着準備した。サイズは、胸囲と身長で表4のように分類した。

着用後「腕の動かしやすさ」、「見た目の善し悪し」、「涼しさ」についての回答を求めた。

7. 結果と考察

また、袖丈については「七分丈は中途半端でフォーマルに見えない」「涼しさを感じられない」「肘が引っ掛かり曲げにくい」という意見があり、盛夏での着用を考えて半袖にすることにした。

動作適合性が高く、見た目の良い袖丈を検討するために、左袖の長さを肘丈より5cm短く、右袖の長さは、肘丈より10cm短くした。

素材についても以下に示す3種類を用意した(表2) 素材の写真は表3に示す。

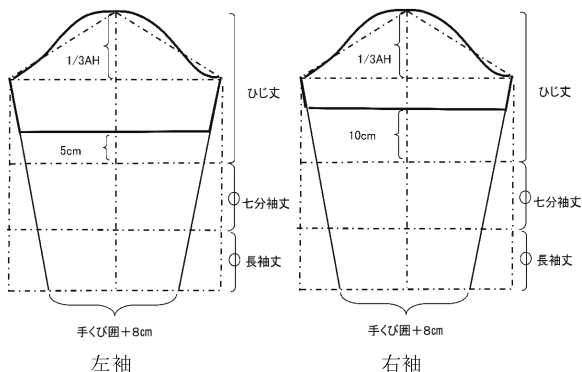


図10 腕の型紙

図11は袖丈についての結果である。袖丈の違う左右の袖の「腕の上げ下げのしやすさ」、「曲げ伸ばしのしやすさ」はほぼ同じように感じているが、動かしやすい方はどちらかと問われると、ほとんどの者が短い袖を好んだ。

一方、袖の「見た目の良さ」については個人の好みによって回答が分かれた。

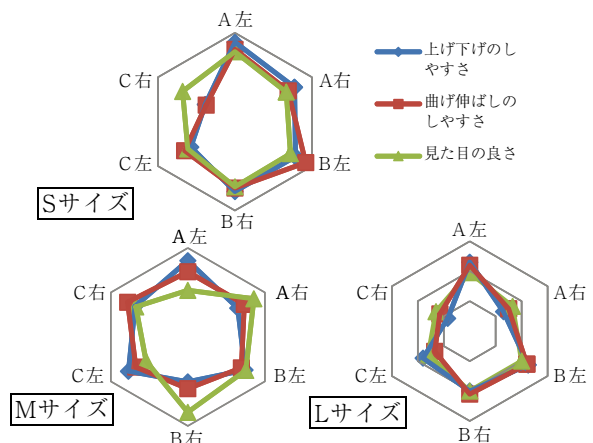


図11 袖丈のアンケート結果

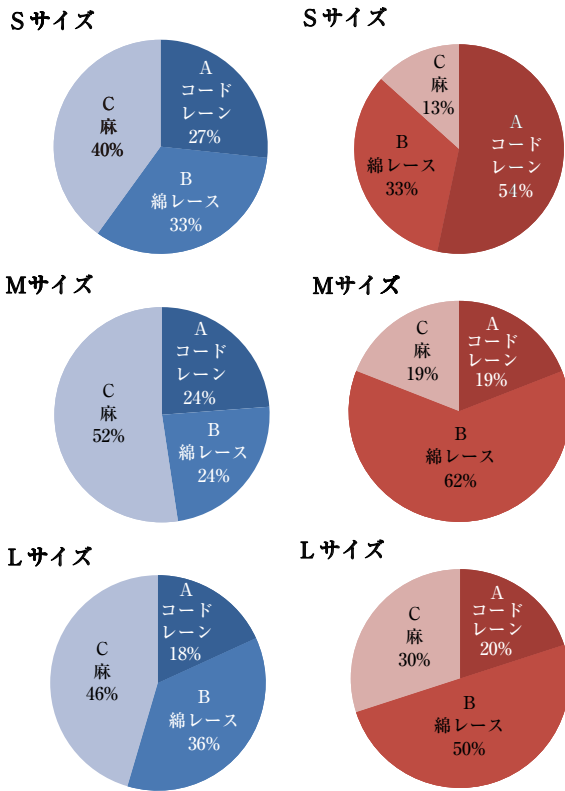


図12 左：涼しさ 右：シルエット

涼しさについては、図12左に示すように半数近くの被験者が実験服Cの麻で作ったジャケットを最も涼しいと感じ、綿レースの実験服Bは布に模様としての孔や隙間があるために通気性が良く、コードレーンの実験服Aより涼しいと感じるものが多かった。

シルエットについては、図12右に示すように、Sサイズのみ白が基調のコードレーンが好まれたが、Mサイズ、Lサイズは黒色で綿レースのシルエットが支持された。

8. 終わりに

本研究では卒業後、教諭になった際のフォーマルな場面でも着用できる盛夏用の涼しく作りやすく、シルエットの美しいジャケットを目指した。

着用実験後のアンケート結果では短い袖が動きやすく、見た目も悪くなかったが、教育現場での着用という条件からすると、長い袖の方がふさわしいと考えた者もいた。

さらに麻で作った実験服が最も涼しいという結果が出たものの、一枚で着用すると肌触りが悪く、着心地は良くないと感じた者が多かった。盛夏用ジャケットの素材は、肌ざわりの善し悪しも検討する必要があることがわかった。

本実験を行うにあたって材料の選択や物理実験につ

いて終始貴重なご指導とご意見をいただいた家政教育講座の長井茂明教授、アンケートの分析方法をご指導いただいた関根美貴教授、実験に協力して下さった家庭選修・専攻の学生の皆様、特に面野沙織さん、西村美穂さん、山本麻美さんに深く感謝いたします。

引用文献

- 1) 加藤祥子:暑季に着用する快適ジャケット（婦人用）Ⅰ, 愛知教育大学研究報告（2010）
- 2) 橋谷田マサ, 山下久子:改訂 被服構成実習（洋裁）Ⅰ, 衣生活研究会

（2011年9月6日受理）